

こんな
活動です

一小校区元気づくり委員会と連携・協働して開催する地域イベント

「音と光の祭典」

関係する学校名

荒尾市立荒尾第一小学校

連携・協力団体等

一小校区元気づくり委員会(一小校区住民による自治的なまちづくり組織)

活動内容・特徴や工夫等

「音と光の祭典」は、地域の伝統・歴史の継承や親睦を深めること等を目的とし、荒尾第一小学校6年児童と地域の方が毎年連携・協働して開催する地域の一大イベントです。当日は荒尾第一小学校児童による発表、地域の音楽家によるライブコンサートなど、多くのイベントが宮崎兄弟生家にて行われました。また、ペットボトルキャンドル等の光の演出や、物品・飲み物等の販売を行う「滔天マルシェ」など、楽しい催し物も数多く開かれました。



宮崎兄弟の功績を
ペープサートで発表



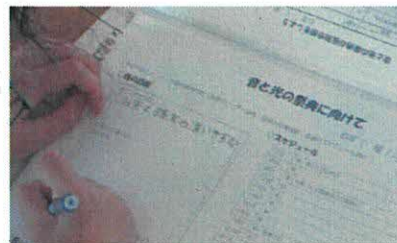
ウクライナ支援の
募金活動も行いました



来場者が楽しめるように
スタンプラリーを企画

6年生は、祭典の1ヶ月前から地域の方と祭典の内容を共に考え、計画に沿って準備を進めました。祭典当日も6年生が主体となって活動し、会場設営から会の進行・運営まで務め、来場された多くの地域の方に喜んでいただきました。

一小元気づくり委員会の方と
事前打ち合わせ



祭典の目的達成に向けて、イベント
の内容を何度も練りました



ペットボトルキャンドル設営の様子
※会場設営も6年生が行いました

《成果》

地域行事の企画・運営から携わったことで、地域行事に単に「参加」するのではなく「参画」する意識を児童がもつことができた。同時に地域の親睦の深まりや伝統・歴史の継承という点で、地域の発展に大きく貢献することができた。

《課題》

総合的な学習の時間に祭典の企画・準備・運営等を行っており、この学習で得た力を他教科や実生活場面で活用できるように、更に意図的・計画的な指導を継続していく必要がある。

こんな活動です

人は人のシャワーをあびて人になる

～学校運営協議会で教育目標を共有し、地域学校協働活動につなぐ～

関係する学校名

荒尾市立万田小学校及び学校運営協議会

連携・協力団体等

荒尾市 万田及び万田中央地区協議会 万田小PTA のあそびラボ 他多数

活動内容・特徴や工夫等

地域のイベントやまつりに参加したいね

傾聴ボランティアを・・・

みんなが喜ぶような花作りがしたい



学校運営協議会で提案

ペットボトルでワクチンを・・・

万田小のオリーブを使って何かできないか

第2回学校運営協議会では、協議会委員と児童会リーダーとの熟議を通して、子供たちが提案する地域貢献活動への助言や協力体制が取られました。



児童会リーダーと栽培委員会が地域の環境美化のために、地域の方とともに駅前の花植えをしました。

地域で行われる夏まつり、のあそびマルシェへなどへの参画を通して地域貢献ができました。



こんな施設が必要に・・・

外国の方が多くなったら・・・

そのためには何をすれば・・・



こういうイベントは・・・

研究発表会で委員との熟議

地区協議会長さんの話を聞いたり、開発される南新地見学をさせてもらったりして、変化していくふるさとの未来を想像していきました。

それらの経験を基に第4回学校運営協議会は、研究発表会の中で公開し、その様子を多くの方に見てもらうことになりました。これからの荒尾について、協議会委員の方々と活気ある熟議を行い、未来の展望を描くことができました。

学校運営協議会や子供、職員のそれぞれが当事者意識をもち、意義ある話し合いと実践を進めることができます。本校教育目標を共有し、それぞれの立場で考え、地域学校協働活動につなぐことで、「社会に開かれた教育課程」の実現に近づいています。

《成果》

先日行われた万田小の研究発表会では、子供たちは約240人の参観者の前で、運営協議会の方々と対話をしながら、ふるさとの未来について堂々と熟議をすることができました。そこでの子供たちの生き生きとしていた姿が印象的でした。

万田小の子供たちは、様々な活動を通してたくさんの人々との出会いやつながり（人のシャワー）によって、目指す子供の姿「主体性・協働性・自律性」の力が培われています。

《課題》

地域との協働活動では、地域と学校目標の共有が必須です。職員や地域住民、関係者等がそのことを強く意識しなくてはなりません。そのためにも、目標を地域へ伝える場面を作ったり、きちんと目的を持った活動に取り組みせたりするなど、誰もがそのことに対して当事者意識を持ちながら活動を進めていくことが大切です。今後は、できる限り多くの方に学校教育目標やその思いを伝えていく必要があります。

こんな
活動です

地域人材によるクラブ活動

～子どもたちが、地域の方の優れた技や知恵を学びながら、
楽しみ、つながる活動です。～

関係する学校名

荒尾市立平井小学校

連携・協力団体等

有明工業高等専門学校（職員・学生）、優れた技や知恵を伝えてくださる地域の方々

活動内容・特徴や工夫等

本校のクラブ活動は、4年生以上の児童が参加し年間8回行う。7つの活動の内4つに外部講師を招いて実施している。

○未来創造クラブ

【内容】プログラミングや e-sports 等を経験する。

【講師】平井小校区に隣接する有明工業専門学校の職員・学生。工業に関する専門的な知見を活かした活動を提供。



○文芸クラブ

【内容】短歌や俳句の作り方を学び、自分で作る。

【講師】短歌・俳句について造詣の深い地域の方。文芸に関する専門的な知見を活かした活動を提供。



○タグラグビークラブ

【内容】「タグラグビー」を楽しむ。

【講師】ラグビーの豊富な経験をもつ地域の方。タグラグビーに関する専門的な知見を活かした活動を提供。



○ソフトボールクラブ

【内容】「ソフトボール」を楽しむ。

【講師】長年、地域のソフトボールクラブの監督として活躍されている地域の方。ソフトボールに関する専門的な知見を活かした活動を提供。



《成果》

- ・優れた技や知恵にふれ、自らの可能性に気づくことができた。
- ・地域に素晴らしい方がいることを知り、ふれ合うことができた。
- ・ふるさとに誇りを持ち、自分の夢を考えることにつながった。

《課題》

- ・活動の継続と拡大を図ること。
- ・協働活動の中身をより充実したものにしていくこと。
- ・学んだことを発信したり、自分の夢に活かしたりすること。

こんな
活動です

本物体験活動の推進

関係する学校名

荒尾市立府本小学校

連携・協力団体等

府本小学校運営協議会、府本地区協議会、府本小 PTA、地域の方々

活動内容・特徴や工夫等

府本小学校では、「本物体験」として、3年生以上の総合的な学習の時間に、学校運営協議会や地区協議会、PTAの方々の協力のもと、各学年に応じた活動を行っている。各学年でできた副産物は、12月10日に地区協議会主催で行われる「歩け歩け大会」で販売を行うこととしている。

【事例1】3年 大豆づくり

地域の方2名から、大豆づくりを教わっている。大豆がどう育つのか話を聞いた後、播種から行い、枝豆の収穫、大豆の収穫を行った。地域の方が唐箕の機械（木製）を持って来られ、殻と大豆が分別される様子を興味津々に見ながら、昔の道具についても学ぶことができた。



【事例2】4年 小代焼づくり



府本地区にある小代焼の窯元（ふもと窯）に行き、ろくろ体験を行った。窯元が本校の保護者であり、一から丁寧に教えていただいた。初めて行う児童が多く、ろくろを回しながら歓声が響いた。

【事例3】5年 お茶づくり

本校には茶畑があり、毎年5月に全校児童で茶摘みを行っている。茶畑が学校にあるのは県内に2校のみであり、保護者や地域の方の協力も得て、特色ある活動を行っている。また、地域の方の指導のもと、5年生が中心で茶畑の剪定や肥料やりを行っている。



【事例4】6年 野菜づくり

昨年度より地域の方の畑を借り、農業名人から育てる上で大切なことを教わっている。今年度は小松菜、ラディッシュ、大根、キャベツを育てており、収穫した野菜は持って帰ったり地域の行事で販売を行ったりする。



《成果》

いろいろな立場の方に支えられており、感謝の気持ちをもって地域の方々と接し、キャリア教育にもつながっている。

《課題》

地域の方に甘えている部分もあり、自分たちで自主的にできることを増やすことが必要である。

こんな
活動です

地域とともにある学校 ～だれもが「行きたい学校」を目指して～

関係する学校名

荒尾市立八幡小学校

連携・協力団体等

八幡小学校学校運営協議会、八幡小学校 PTA、八幡地区協議会など

本校は、昨年度から国版のコミュニティ・スクールとして活動している。その中で、「学校に行きたい(子ども)」、「子どもに会いに行きたい(教職員)」、「子どものがんばりや成長を見に行きたい(保護者)」、「加勢しに行きたい(地域・行政)」というように、だれもが「行きたい学校」を目指している。

学校運営協議会では、学校内と同じ4つのプロジェクト(学力向上・心づくり・体づくり・生活充実)を組織し、学校の教育活動と連動させながら進めている。

【事例1】野原八幡宮例大祭「風流」に関する取組

本校に隣接している八幡地区のシンボル野原八幡宮例大祭「風流」に関して、6年生の「ボランティアガイド」を最終目標として、学年ごとにテーマを設け学習を行っている。その中で、風流節頭保存会の方をゲストティーチャーにお招きして体験活動を実施している。今年度は、「笠切り」体験を行い、子ども達の手で笠を作ることができた。地域の伝統文化を地域の方と一緒に作り、継承していく、大変有意義な学習となった。



< 笠切り体験の様子 >

【事例2】引き渡し訓練

昨年度から、生活充実プロジェクトと地域の自主防災組織が連携・協働して「引き渡し訓練」を実施している。地域の防災組織の方々には、混雑が予想される周辺道路の交通係として安全に誘導していただいた。



< 車の誘導と反省会の様子 >

《成果》

今年度の取組を通して、子どもたちが地域の宝に気づき、地域を愛することへつながることができた。また、地域の方々においても子どもたちに対する関心が高まった。

《課題》

子どもたちに地域を愛する豊かな心情を育てていくためにも、子どもたちが主体的に活動できる取組をさらに工夫していく必要がある。